

Labo News

新春を迎えて



愛知県知事 大村 秀章

らぼ ニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
住 所 名古屋市中村区名駅5-16-17
花車ビル南館 〒450-0002
電 話 052-581-1013
F A X 052-586-5680
ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
取引銀行 三菱東京UFJ銀行 柳橋支店
普通口座731-677
発行人 梶山広美
編集人 山田 真

No.394 目次

- ◆年頭挨拶 大村秀章…………… (1)
- ◆年頭挨拶 加藤昌弘…………… (2)
- ◆年頭挨拶 梶山広美…………… (2)
- ◆管理運営研修会を開催して…………… (3)
- ◆愛臨技精度管理「結果検討会」に参加して… (4)
- ◆地区だより…………… (4)
- ◆世界エイズデー in NAGOYA2014報告… (5)
- ◆平成26年度尾張北地区研修会に参加して… (6)
- ◆西三河地区研修会のご案内…………… (7)
- ◆尾張南地区研修会のご案内…………… (7)
- ◆講演会・研究会…………… (8)
- ◆AICCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
通信 (第31回) …………… (10)

あけましておめでとうございます。

昨年、リニア新時代を見据えた大都市圏づくりに向け、県政各般にわたり、様々な取組に力を注ぐとともに、「ESDユネスコ世界会議」、「技能五輪・アピリンピックあいち大会2014」の開催などを通じ、愛知を大いに発信できました。

今年も、「あいちビジョン2020」の着実な推進を図りながら、更なる飛躍を目指してまいります。

まず、世界に発信する「中京大都市圏」づくりです。2027年度のリニア開業による5千万人の大交流圏の実現をにらみ、鉄道・道路・空港・港湾などの機能強化を進めてまいります。

また、燃料電池自動車を始めとする自動車産業の高度化、航空宇宙産業やロボット等の次世代産業の育成・振興、企業立地の促進、中小企業支援などとともに、農林水産業のパワーアップを図り、「産業首都あいち」の実現を目指してまいります。

そして、愛知を支える「人づくり」に全力で取り組み、すべての人が輝き、活躍する愛知づくりを進めてまいります。

さらに、スポーツ大会の育成・招致に取り組むとともに、今年を「あいち観光元年」と位置づけ、愛知の魅力を高め、積極的に発信してまいります。

こうした取組のほか、グローバル展開、安全・安心な地域づくり、「環境首都あいち」に向けた取組、地方分権・行財政改革、東三河県庁を核とした地域振興などにも力を注ぎ、愛知の総合力を高めてまいります。

引き続き、「日本一元気な愛知」の実現に向けて全力で取り組んでまいりますので、県民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成27年元旦

新年を迎えて



愛知県健康福祉部
保健医療局長
加藤 昌弘

明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

本県の健康福祉行政の推進につきましては、日ごろから格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

貴会は、昭和62年4月に本県の認可を受けて社団法人として活動を始められ、これまで25年以上の長きにわたり、臨床検査及び衛生検査に携わる県内唯一の技術者団体として、知識及び技術の研鑽や衛生思想の啓発を通じて県民の健康の保持及び増進に貢献してこられました。

これも、ひとえに会長をはじめとする役員の皆様や会員の皆様方のたゆまぬ努力によるものと心から敬意を表するとともに、今後の更なる御活躍を大いに期待しております。

平成27年4月1日から臨床検査技師等に関する法律の一部改正に伴い、臨床検査技師の業務として新たに「微生物学的検査等のための検体の採取」が加わり、インフルエンザウイルス等の微生物学的検査を目的とした鼻腔拭い液等の採取や、細菌・真菌検査等を目的とした手足指・表在組織からの検体採取等が可能となります。会員の皆様方におかれましては、臨床検査の専門家としてその能力をより一層高められるとともに、医療を支える一員として、県民の健康の保持及び増進のために、一層御尽力いただきますようお願い申し上げます。

本県におきましても、県民の皆様方の安全で快適な暮らしの実現に向けて、全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き皆様方の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の御健康と貴会の一層の御発展を心からお祈りいたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

平成27年 元旦

年頭のごあいさつ



公益社団法人
愛知県臨床検査技師会
会長 梶山 広美

明けましておめでとうございます。

新春を迎え、会員の皆さまには心からお慶び申し上げます。日頃より、愛知県臨床検査技師会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年は、公益社団法人に移行し3年目の年になります。昨年6月28日から、新役員のもと事業を展開してまいりましたが、愛知県健康福祉部のご指導と会員の皆様のご協力により順調に事業も進められております。

さて、医療を取り巻く環境も、少子化・超高齢化への対応が必要となります。我々臨床検査技師は、チーム医療の推進の中で積極的に検査室の外へ出かけていくこと、また、将来は在宅等への業務拡大も必要になるでしょう。今年、臨床検査技師等に関する法律の一部が改正され、平成27年4月1日から臨床検査

技師の業務範囲に一定の検体採取が追加になります。この検体採取の実現により、検査前説明、採血・検体採取、検査の実施、報告書作成、検査結果説明の全ての過程で臨床検査技師が関わるようになります。

このような環境の中、当会は、現在会員数も2,862人となり、更に会員から信頼され、会員が望む活動を推進しなければなりません。法改正やチーム医療推進への対応、そして、昨年11月の理事会において承認されました平成27年度以降3年間の事業方針と計画に沿って、事業を展開する予定です。公益社団法人の運営基盤の確立、臨床検査と臨床検査技師の質の向上推進、会員への支援強化、女性の活躍推進を重点実施事項とし、今年より、各部門で活動していくこととなります。

また、日本臨床衛生検査技師会との連携では、2年目となる「検査説明・相談のできる技師育成」事業や、「検査と健康展」、日臨技精度保証施設認証制度における認証施設拡大も愛臨技として協力並びに活動してまいります。

新年を迎え、役員一同心新たに、愛知県下の医療の質の向上ならびに当会の更なる発展のために活動していく所存です。

本年も、昨年同様に温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。会員の皆さまの益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

管理運営研修会を開催して

組織部 岩尾 文彦

平成26年11月29日(土)にスズケン名古屋支店2F会議室にて70名の参加のもと、開催されました。本年度の研修メインテーマとして平成26年6月に「臨床検査技師等に関する法律の一部改正」が成立し、臨床検査技師が診療の補助として採血に加え、検体採取が出来るようになったことを受けて、今後の導入に関する日臨技の対応や臨床検査技師の新たな戦略等を模索することを掲げました。また、管理職には必須である職場における健康管理と環境管理についての講演も企画しました。この研修会は愛知県臨

床検査技師長協議会と共催で開催しており、いわゆる管理職の方だけが参加する研修会と思っておりましたが、入職2～3年目と思われる女性技師も数名参加して頂き、開催する側としては大いに感激した次第です。来年以降も時勢に則したタイムリーな内容を企画して老若男女入り混じっての新しい研修会が出来るのではないかと心密かに閃きました。最後に、研修会が恙無く盛会理に終了したことは技師長協議会の方々や(株)スズケン様のご協力の賜物であり、この紙面をお借りして感謝致します。

平成26年度管理運営研修会に参加して

東海市民病院臨床検査科 山内 昭浩

平成26年11月29日(土)15時から17時、(株)スズケン名古屋支店2階会議室において開催された「平成26年度管理運営研修会」に参加しました。

愛知県臨床検査技師長協議会との共催で、3名の講師を招いての研修会でした。

NPO法人健康情報処理センターあいち業務部長池山真治先生からは、「医療従事者の健康管理と環境管理」について平成25年3月に愛知県臨床検査標準化協議会(AiCCLS)から発刊されたガイドラインに沿った説明がありました。また来年12月から施行される職場環境の改善に繋がるメンタルヘルス対策について説明がありました。

日臨技専務理事 横地常広先生からは、来年4月の法改正に伴う「検体採取等に関する厚生労働省指定講習会実施要領」の説明がありました。いわゆるグレーゾーンの業務を独立した形で明確化させたものであり、私たちのライセンスの一つであると強調されました。これから4年間で5万人の受講を目指し、全国73か所での指定講習会を実施します。日臨技HPからの申込みで、東海地区は来年1月17日・18日に名古屋市立大学がキックオフとなります。皆様の理解と積極的な参加をお願いされました。

日臨技 医療政策WG 奥田勲先生からは、「新たな取り組みが私たち臨床検査技師にもたらすもの」と題して講演して頂きました。厚労省のチーム

医療推進の方向性と日臨技の果たす役割について熱く語って頂きました。「なぜ、検査説明・相談が優先なのか？」の問いに対して、平成19年に国から検査技師に要請されていた案件であるにもかかわらず、十分に答えきれていない現状であり、検査技師の存在感や業務拡大を目指す上で重要であると説明されました。施設事情があるとは思いますが、やらずして後悔するよりも「やろうとして、現在やる・やらないを決める」ことが重要であると強調されました。勇気を持ち、後世に残すべく道を切り拓いていこうと参加者を鼓舞して頂きました。

新しいことを始めるには「勇気」が必要であり、世間の期待度が大きい分、求めに応じる姿勢が大切であると強く感じた研修会でした。



愛臨技精度管理「結果検討会」に参加して

医療法人青山病院 平田 基裕

平成26年11月6日に開催された精度管理結果検討会に参加しました。結果検討会は精度管理の成績が基準を下回ると招聘されることから、敬遠される方もいると思いますが、今年は50施設が対象となり、33施設46名の参加者があったそうで、招聘されて参加することは特別なことではないことが分かっていただけだと思います。

会は、愛知県内の検査室のレベルを上げようといった意識に燃える精度管理部事業部の方、各研究班の精度管理担当者、班長などベテランの方が出席され、それぞれの担当の方が、成績が悪かった部分について、丁寧に解説、または参加者と一緒に原因の究明をして下さるといったものでした。私は血液のフォトサーベイで参加しましたが、一つ一つの問題を解説していただき、また染色液の管理方法や血液

像を読むときの考え方などを丁寧に教えていただきました。他の県ではこのような会は行っていないようで、愛臨技の活動のきめの細かさを感じました。会を主催された皆様ありがとうございました。



地区だより

稲沢市民病院

臨床検査科 堂崎珠代

昭和23年に稲沢病院として開院され昭和33年に名称変更して稲沢市民病院となりました。60年以上歴史のある建物から場所を移転して平成26年11月4日、新稲沢市民病院として一般外来診療を開始しました。

地上6階・診療科17・HCU10床・一般病床310床で健診センター・糖尿病/内分泌センター・内視鏡センター・通院治療センターがあります。

新病院に伴いO-arm・結石破碎装置が導入され血管撮影装置も新しくなりました。

旧病院と比べて駅から遠くなりましたが市のコミュニティバスの路線・運行数を増やして対応しています。また市民会館や図書館が隣接し大きな公園も整備されてゆったりとした空間の中に病院が建っています。名鉄本線が真横を通り電車が走るのが院内からでも見ることができます。

さてここで少し検査科の紹介を。当病院は臨床検査科と病理科がありパート職員を合わせて15名の技師がいます。臨床検査科は生理検査・細菌検査・一般検査・血液/輸血検査・生化学検査の部門にわかれています。

1階に生理検査室と採血室、2階に病理検査・検



体検査・細菌検査室があるので各検査室において検査が滞りなくすみ、1階の検査室においては患者様をお待たせする事のないように日々努力をしています。旧病院で放射線科にあった超音波検査室は生理検査室内にかわり心臓超音波検査の導線がよくなりました。

新病院となり外来患者数も増え、検査数も少しずつ増えてきています。これからも『地域の皆様に親しまれ信頼される病院をめざします』を基本理念とし地域の皆様の健康管理にお役に立てるよう努めていきたいと思えます。

もし名鉄電車に乗る機会があれば電車の中から『あ！稲沢市民病院だ』と新しい建物を見てくださいな。一瞬の景色かもしれないが…。

STOP! AIDS

世界エイズデー in NAGOYA 2014報告

組織部 岩尾 文彦

平成26年12月1日(月) 栄広場にて「世界エイズデー in NAGOYA 2014」に参加しましたので報告いたします。小生も以前から名古屋医療センターでHIV検査に関与していましたが、このようなパレードに参加することは初めてでした。HIV感染は新規感染者が増加していた2000年前半と比較すると現在は横倍との報告があります。また、現在は多剤併用療法(HAART)によりエイズ発症をコントロールできる慢性疾患との位置づけですが、一度感染が成立すると、HIVは感染者体内に絶え間ない炎症状態を作り出しています。そのために一般的には老化が

進み、ロングサバイバルは期待できないと言われていきます。また、最近の知見では近年感染症例の中に軽度の認知症が認められるケースが多いことが報告されて、がぜん注目を浴びています。未だに治癒できない感染症であり、検査を通じてHIVの正しい認識や感染リスクの高い人々に検査を受けて頂くことを今後も啓発していきたいと思えます。

今回のパレードには、週初めの忙しい中、愛臨技会員が20名参加して頂きましたことに厚くお礼申し上げます。

世界エイズデー in NAGOYA 2014 に参加して

中部ろうさい病院 玉腰 利長

平成26年12月1日(月)に『世界エイズデー in NAGOYA 2014』に参加してきました。当日の名古屋の天気は昼過ぎまで雨でした。しかし、わたしの日頃の行いが良いこともあり、夕方には雨もあがり少し肌寒さはありませんでしたが、絶好のパレード日和となりました。

世界エイズデーは世界レベルでのエイズの蔓延防止と患者や感染者に対する差別・偏見の解消を目的にWHO(世界保健機関)が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に世界各国で啓発活動が行われています。名古屋で行われるこのイベントは今回で10周年を迎えるとともに、集大成としての開催となりました。

イベントでは音楽集会もあり、名古屋在住のカルテットというアーティストをはじめ様々なジャンルの迫力あるライブを間近で見ることが出来ました。パレードではクリスマスイルミネーションで綺麗に彩られた栄周辺を一般の方や他の参加団体の方とともに横断幕やのぼりを掲げ、チラシなどを配りました。そして、理解と支援の象徴である「レッドリボン」を首にかけ、エイズやHIVに

もっと関心を持ってもらえるようにアピールしながら約1時間かけて歩きました。「レッドリボン」にはエイズに関して偏見を持っていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージがあるそうです。

今回のパレードで、世界中の人々がひとつになり、何か発信することの大切さを学ぶ貴重な体験が出来ました。このパレードは今回で最後と伺いましたがとても残念でなりません。もしも、またこの運動が行われることがあれば、是非参加したいと思えます。



西三河地区研修会のご案内

専門教科：20点

日時：平成27年2月7日(土) 15:00～17:00

会場：豊田厚生病院 第一会議室

司会：豊田厚生病院 迫 欣二

テーマ：「職場のメンタルヘルス」

～いったい、“うつ”とはどのようなものなのか～

講師：豊田厚生病院 精神科 臨床心理士

加藤 史哲先生

内容：うつ病、うつ状態、抑うつ、不適應、メンタルヘルスなど、“うつ”という言葉に代表される、精神的不調を表す言葉を聞く機会は増えてきています。中には、実際に職場などでそのような方の接し方に悩んだり、今後、自分がそうになってしまったら…と不安に感じたりする方もいらっしゃると思います。

しかし、“うつ”と言っても、何かの病気によるものなのか、性格によるものなのか、そのほかの何かによるものなのか、いったいどのようなものかを言っているのかよくわからないという方が多いのではないのでしょうか。

一言で“うつ”と言っても、その病態はさまざまです。背景となる事情や要因、発症のきっかけ、現れている症状、適切と考えられる治療法もそれぞれ異なります。そのため、対処法、予防法はケースバイケースと言わざるを得ない面ももちろんあり、試行錯誤を経て解決してゆくものではあると思います。

今回の講演では、それらをできるだけわかりやすく、さまざまな場面で応用しやすい形での類型化を試み、それぞれに対する対処法、予防法について考えてゆくことで、ケースバイケース、試行錯誤の一助となればと考えています。

尾張南地区研修会のご案内

基礎教科：20点

日時：平成27年2月28日(土)

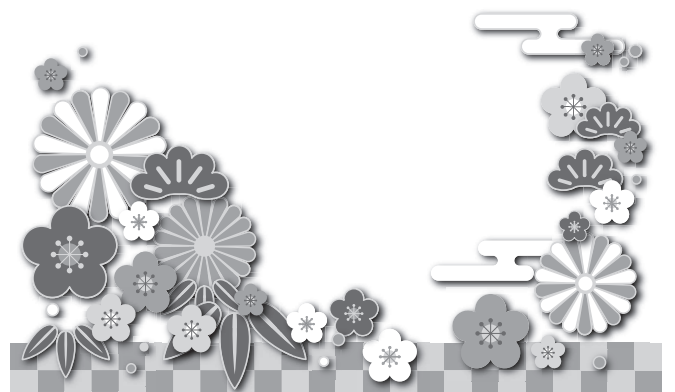
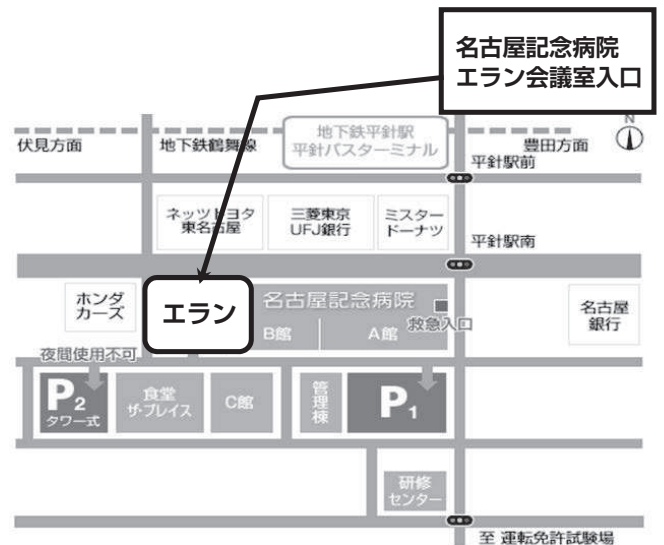
場所：名古屋記念病院 エラン会議室2階

テーマ：「我々の身近に潜む感染症」

講師：愛知医科大学病院 角坂 照貴先生

司会：名古屋記念病院 南谷 健吾

内容：伊勢でダニによる感染が発生していた!? 野でも!?ダニ媒介によって起こるSFTSも毎年患者は出ています。私たちの身近にある寄生虫による感染症、意外と気づいていないかも?今回、一般検査研修会でもお馴染みの角坂先生を講師にお招きして、我々検査技師が知っておかなければならない感染症から“そうなの?”と思うことまでお話して頂きます。(当日は実際の標本を数例用意いたします。)



講演会

生殖医学検査研究班

専門教科：20点

日時：平成27年2月14日(土) 15:30～17:00

場所：藤田保健衛生大学 坂文種報徳會病院
2階 第3会議室

テーマ：「新しい出生前診断」

講師：藤田保健衛生大学病院
産婦人科 准教授 西澤 春紀

司会：藤田保健衛生大学病院 古川 博

3. イムノアッセイの精度管理について考える

バイオ・ラッド ラボラトリーズ

株式会社 診断薬事業部

マーケティング部 植村 康浩

司会：名古屋大学医学部附属病院 有馬 武史

厚生連安城更生病院 蜂須賀靖宏

内容：平成26年度愛知県精度管理調査の解析結果について詳細報告します。また、イムノアッセイにおける精度管理手法と評価について解説します。多くの方の参加をお待ちしております。

講演会

病理細胞検査研究班

基礎教科：20点

日時：平成27年2月21日(土) 15:00～17:00

場所：カーク本社ビル

テーマ：1. 「平成26年度 精度管理報告」
2. 「精度管理を担う認定病理検査技師の役割」

講師：名古屋大学大学院 橋本 克訓
東海市民病院 吉本 尚子
名古屋市立大学 滝野 寿

司会：名古屋第二赤十字病院 長田 裕之

内容：今年度行なった病理部門、細胞部門の精度管理の報告を行ないます。また、本年度から新たに発足した認定病理検査技師制度に関して、認定技師が行うべき精度管理についての講演を企画しました。是非、ご参加下さい。

研究会

輸血検査研究班

「愛臨技精度管理事業報告会」

専門教科：20点

日時：平成27年2月14日(土) 15:00～17:00

場所：名古屋市立大学

医学研究科・医学部研究棟11階講義室A

テーマ：安心・安全な輸血医療を目指して

講師：1) 平成26年度精度管理調査報告

豊田厚生病院 原田 康夫

2) 輸血感染症と安全対策の現状について

愛知県赤十字血液センター 学術課

石川 裕子

司会：半田市立半田病院 森本奈津代

内容：平成26年度精度管理調査結果をもとに、各施設における輸血検査の現状や検査上注意を要するポイント等を報告します。また、個別NATによる血液製剤の安全性確保と Dengue 熱・ウエストナイル熱・エボラ出血熱等の新興・再興感染症の血液センターでの対策について講演いただきます。

※研究会後、精度管理に関する相談会を開催します。相談のある方は、受付時にお申し出ください。なお、施設別報告書、抗原表などの資料を持参してください。

研究会

生物化学分析検査研究班

専門教科：20点

日時：平成27年2月7日(土) 15:00～17:00

場所：株式会社カーク本社ビル5F大会議室
名古屋市中区丸の内3-8-5

テーマ：平成26年度愛臨技精度管理報告

講師：1. 臨床化学部門 精度管理報告
厚生連足助病院 古井 清
厚生連江南厚生病院 林 克彦

2. 免疫血清部門 精度管理報告

厚生連安城更生病院 鈴木 美穂

研究会

一般検査研究班

専門教科：20点

日時：平成27年2月14日(土) 15:00～17:00

場所：医療法人宏潤会 だいでうクリニック
5階 講堂

(名鉄常滑(河和)線柴田駅南口下車徒歩3分)

テーマ：「愛臨技精度管理調査報告」

講師：①名古屋大学医学部附属病院

岩崎 卓識

②岡崎市医師会公衆衛生センター

畔柳 里美

③社会医療法人宏潤会 大同病院

浅井 千春

④JA愛知厚生連 足助病院 塩谷 里実

⑤豊川市民病院 永井 君子

⑥医療法人 青山病院 平田 基裕

司会：特定医療法人衆済会 増子記念病院

平田 弘美

内容：平成26年度の愛臨技精度管理調査の報告を行います。結果の報告だけでなく、尿定性の注意事項、便潜血については測定方法から問題解決の方法、フォトサーベイについては成分の見方、考え方から類似の成分との鑑別方法など、詳細に解説していただきます。サーベイに参加していない施設の方も参加して頂けます。

研究会

遺伝子染色体検査研究班

専門教科：20点

日時：平成27年2月14日(土) 15:00～17:00

場所：スズケン名古屋支店 2F 会議室

テーマ：「血液腫瘍の検査

～遺伝子・染色体検査を中心に～」

講師：1. 「血液腫瘍の診断へのアプローチ

～血液検査室～」

名古屋第一赤十字病院 牧 俊哉

2. 「BCR-ABL1検査における問題点と解決策」

シスメックス株式会社

HUビジネスユニット 上澤 隆信

司会：名古屋第二赤十字病院

岩田 英紘

研究会

血液検査研究班

基礎教科：20点

日時：平成27年2月21日(土) 15:00～17:00

場所：スズケン名古屋支店 2F会議室

テーマ：1. 愛臨技精度管理調査報告会

2. 血小板凝集塊検出の活用

講師：1. 独立行政法人地域医療機能推進機構

中京病院 宇野 智子

JA愛知厚生連 江南厚生病院

川崎 達也

2. アボットジャパン(株) 営業統括部

星野 勝信

司会：JA愛知厚生連 豊田厚生病院

酒巻 尚子

研究会

生理検査研究班

専門教科：20点

日時：平成27年2月28日(土) 15:00～17:00

場所：名古屋市立大学医学研究科
医学部研究棟11階講義室A

テーマ：平成26年度愛臨技サーベイ解説

講師：1. 愛臨技精度管理調査報告

中京病院 加藤 鮎美

2. 心電図

大同病院 野呂 美幸

3. 脳・神経生理

名古屋市立大学病院 久富 一毅

4. 肺機能

半田市医師会健康管理センター

山口 温子

5. 心・血管エコー

名古屋大学医学部附属病院

後藤香緒里

6. 腹部・表在エコー

豊田厚生病院

永田 篤志

司会：公立陶生病院

大竹 悦子

AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信 (第31回)

愛知県臨床検査標準化協議会（Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization : AiCCLS）は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発刊された刊行物、「医療従事者の健康管理と環境管理」についてご紹介いたします。

医療機関にとって、労働者が健康で働き続けることは重要な課題です。そのため、法令に定める健康管理や環境管理の的確な実施を行うためにあたり、このガイドラインを活用していただくため、是非ご活用ください。今回は“労働衛生の三管理”を抜粋しました。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS : 愛知県臨床検査標準化協議会)

労働衛生の三管理

検査室の作業環境中に有害要因が存在する時、有害要因を除去する、一定の濃度まで低減させる、あるいは必要に応じて保護具を用いて労働者（医師、臨床検査技師及び看護師等）への健康障害を未然に防止することが必要となる。このような対策を講じた時、その対策が有効であるかどうかを定期的又は必要に応じて見直しをし、実施することが「作業環境管理」である。環境中には、化学的因子（有害化学物質等）、物理的因子（温熱、放射線、騒音等）等、さまざまな有害要因がある。労働者の健康に対する有害作用や、健康を悪化させるなどの影響がある場合、工学的対策（局所排気装置等）により環境中から有害要因を除去し、快適な作業環境を維持することが重要である。

医療機関における有害要因としては有機溶剤、特定化学物質、電離放射線、有害光線、騒音、振動、高温・低温の物理的因子がある。「作業環境管理」を進めるためには、作業環境中にこれらの有害な要因がどの程度存在し、その作業環境で働く労働者がこれらの有害な要因に、どの程度さらされているのかを把握する必要がある。その把握を作業環境測定という。一般に「作業環境管理」の概念の中には、有害要因を把握するための作業環境測定が含まれている。労働安全衛生法¹⁾第2条では作業環境測定は「作業環境の実態を把握するため空気環境、その他の作業環境について行うデザイン、サンプリング及び分析（解析を含む）をいう」と定義されている。また、有害要因が労働者に与える影響は、作業の内容、方法及び作業姿勢の他、その労働者の健康状態によっても異なり有害要因を適切に管理することが必要である。このような管理を「作業管理」という。更には、有害な要因にさらされる労働者が、健康に悪影響が生じていないかどうか監視するとともに、その結果に基づき必要に応じて「作業環境管理」又は「作業管理」を改善することが必要となる。そのためには、有害要因にさらされる作業に就く前の健康診断（就業時診断）、定期的な健康診断及びその結果に基づく事後措置等を適切に実施する事が求められる。このような管理を「健康管理」という。

事業者には健康診断等を通じて労働者の健康状態を把握することにより、健康障害を未然に防ぐとともに健康増進につながる取り組みを求められている。また、高齢期になっても心身ともに快適な生活が送れるよう、継続的かつ計画的に心身両面の健康保持増進を図る事も重要である。

このように労働衛生は「作業環境管理」「作業管理」及び「健康管理」と連携をもって、総合的に展開することが重要であり、これら三つの管理を「労働衛生の三管理」という。

